

219-1953

# 日本組織培養学会

昭和63年4月20日

会員通信  
第65号

発行責任者  
許 南浩(東大・医科研), 間中研一(獨協医大)  
常盤孝義(岡山大・医), 大島 浩(大阪歯大)  
山下三千年(長崎大・医)  
東京都港区白金台4-6-1 (〒108)  
東京大学医科学研究所・癌細胞学研究部  
電話(03) 443-8111 内線 256

## § 昭和63~66年度会長ならびに昭和63, 64年度 幹事選挙の結果について

開票日時 : 昭和63年2月13日(土) 午後1:30 ~ 5:30

開票場所 : 北里大学医学部産婦人科学教室

開票者 : 選挙管理委員 蔵本博行(庶務幹事)  
同 宮崎正博(同上)  
立会人 乾直道(会計幹事)  
同上 浜野美恵子(会員)

開票結果は下記のとおりです。尚、投票総数279票で無効投票数はゼロでした。

会長 当選 黒田行昭 116票  
次点 高木良三郎 107票

### 40歳以上幹事

当選 難波正義 114票  
" 梅田誠 89票  
" 鈴木利光 76票  
" 野沢志朗 76票  
次点 永森静志 71票

### 40歳未満幹事

当選 桶田俊光 96票  
" 菊川忠裕 72票  
" 中野修治 61票  
" 水沢博 60票  
次点 千田和宏 30票



(以上)  
(選挙管理委員 蔵本博行)

## § 幹事会議事録

日時 : 昭和63年3月18日(金) 午後1:30 ~ 6:00

場所 : 東京都千代田区内幸町1-1-1

インベリアルタワー 17階17C-4会議室

出席者 : 佐藤二郎, 蔵本博行, 乾直道, 加治和彦, 小野順子, 渡辺正己, 許南浩,  
間中研一, 宮崎正博, 高木良三郎, 奥村秀夫

## 1. 会長挨拶

「愈々4年の任期満了の時期を迎えようとしています。前幹事会(上半期)及び現幹事会(下半期)を通して今回が最終の定例幹事会となりますので、これまで通りの活発な討議をお願い致します。」——との佐藤会長のご挨拶により定例幹事会が開会しました。

## 2. 会長・幹事選挙結果報告

歳本選挙管理委員(庶務幹事)より下記のとおりご報告がありました。

2月13日(土)選挙管理委員歳本博行、宮崎正博両庶務幹事ならびに立会人として乾直道会計幹事、浜野美恵子会員が北里大学医学部産婦人科学教室で開票を行い、別項記載の如く新会長ならびに新幹事8名が選出されました。

尚、今回の被選挙人名簿のうち、会長選挙で被選挙権のない方の名簿に重大な誤りが生じ、会員各位に大変ご迷惑をおかけいたしました。幸にも、奥村秀夫、乾直道両会員の御指適により迅速に対処でき(お詫びと訂正、1月27日(水)に速達便で発送)、選挙を執り行えました。会員各位のご理解とご協力の賜と深く感謝致しますとともに、ここに重ねてお詫び申し上げます。

今回の選挙の経過ならびにこれに関する議論の概略は下記のとおりでした。

- 被選挙人名簿の誤りに対する訂正文発送が有効に働いたかどうかについて検討された。投票者へ訂正文が届いたと推定される前に40票前後の投票があったが、それへの対応が現実的に不可能であり、又大きな影響はないとその時点で判断して開票を行ったと、選挙管理委員から説明があった。
- 再選挙も含め幹事会としての方針を決めるため、幹事会を開催してはどうかとの提案もありましたが、時間的、経済的諸般の事情により開催されませんでした。
- 上記の様にいろいろ対策が検討されましたが、遅滞なく訂正文を発送できましたので公平な選挙の体制が整ったと判断し、会長より委託された選挙管理委員の責任のもとに前向きに開票に踏み切りました。
- 本年度総会で選挙無効の動議、その成立の場合は再選挙ということも予想されるが、今回の選挙結果特に会長選挙の結果を当該者に承認していただけるなら問題ないのではとの意見がありましたが、このことは当該者本人だけの問題でなく、またこの様な調査は不可能であると結論しました。
- 現行の制度上いろいろ不備がありましたが、幹事会は諸般の事情を考慮し、今回の選挙結果を尊重し、承認しました。
- 今回の選挙で当選されました当該者に新会長あるいは新幹事就任受諾の有無を選挙管理委員が調査することになりました。
- 今回の様なミスを未然に防ぐため、現幹事会が選挙公示・案内、被選挙人名簿作成等のモデル化を図り、新幹事会へ申し送ることになりました。

## 3. 奨励賞の選考

昭和62年度奨励賞に5件、昭和63年度奨励賞には7件の応募がありました。選考規定細則

第2および第3条(会員通信第63号に記載)に基づき、審査・投票は応募者である幹事(宮崎庶務幹事)を除き、会長、幹事7名、指名幹事1名ならびに当該研究発表時の座長で行われました。因に、昭和62年度の審査委員は15名、昭和63年度は17名でした。各審査委員の投票を蔵本庶務幹事が集計され、これに基づき充分な審議の上、下記のとおり受賞者が決定しました。尚、宮崎庶務幹事は候補者であるため、中座し、審議に加わりませんでした。

記

昭和62年度奨励賞	菅 幹 雄 (東北大)
昭和63年度奨励賞	宮 崎 正 博 (岡山大)
同	武 富 真 子 (日本たばこ)

表彰は第61回 大会総会時に3月18日付で、佐藤現会長名で行うことになりました。

#### 4. 組織培養研究の改革について

組織培養研究の改革ワーキング・グループ 渡辺正己委員長より下記のとおり活動報告がありました。

2月2日(火)正午より横浜市立大学医学部 RI センターにて、委員4名(渡辺正己、許 南浩、間中研一、宮崎正博)ならびにオブザーバー1名(加治和彦)の計5名による委員会が開催されました。当日、本学会の存在意義、機関誌発行の意義、機関誌の改革についての問題点等について討議し、幹事会とは独立の編集委員会の設立と、論文誌発行を充分サポートできる学会の経済的体質の改善を早急に検討する様に提案しました(本委員会の活動報告の詳細が別項に記載されていますのでご参照下さい)。

— 上記の報告を基に活発な討議が行われました。討議の概略は下記のとおりです。

- 本学会員が本学会に対しどのような期待を抱いているかという世論の把握が十分にできていない現状なので、改革案を出すにあたって大変苦労しました。委員会としては将来的な本学会の理想像を描きつつ改革案を出しました。
- 刊行費のサポートが十分に得られるならば、季刊論文誌の発行はすぐにも可能であるという展望に対し、スベリ止めの役割しか果さない論文誌になる危険性が考えられるので慎重な検討を要するという意見がありました。
- 本学会機関誌としての特徴のある論文誌にするべきである。例えば、昨今、細胞株樹立の様な内容の論文を発表する場を見出すのに大変苦労が多い。しかし一方で、細胞株を使った論文発表の場合には必ずその細胞株の記載してある文献が要求されるという矛盾がある。従って細胞株樹立等の内容発表に機会を与える様な論文誌にしてはどうか。
- 速報集から発展させてはどうかという意見もありました。
- 現時点で本学会独自の、且つ内容の豊かな論文誌を生み、育てていくのは大変困難であると思われるので、現存の関連学会誌との合併誌を考えてはどうかという提案がありました。これに対し、それも一つの方法であると思われるが、独立より共存の方がむしろより難しく思われるので、この点に関しては慎重な検討を要するということになりました。
- 今回のワーキング・グループ案は理想像として全く問題なく、ワーキング・グループを土台にし

て編集委員会へと発展させてはどうかという意見がありました。

— 以上の討論をもとに、幹事会として下記の方針を決定しました。

- 学会誌のあり方を継続検討するための編集委員会を発足させる。つまり学会誌の検討ならびに編集のための委員会を発足させ、長期的展望（4～5年かけて）に基づき、更に具体的な検討を行うことを新幹事会へ申し送ることになりました。
- 季刊論文誌を発行するためには、ワーキング・グループが試算したところ約5,000円の会費値上げが必要となる。しかし、会費値上げに関しては、会計ワーキング・グループの提案（正会員1,000円、賛助会員10,000円の値上げ）が前回の幹事会で承認されたばかりなので、今後の問題として継続審議することになりました。また広告収入依存性についても継続審議することになりました。

尚、渡辺委員長より、第61回大会（5月19～21日、大分）にて“機関誌改革に関するラウンド・テーブル・ディスカッション”がもてる様ご配慮願いたいと大会世話人 高木良三郎教授に依頼いたしました。

#### 5. 第62回大会世話人について

慣例に従って次々期大会世話人について、佐藤会長より大会の世話人の選考については本学会幹事を経験し、本学会運営に貢献された方で未だ世話人経験のない方を優先的に選んできた経過に従って、蔵本現庶務幹事が今期2年間の幹事活動に献身され、学会の運営ならびに発展に大いに貢献されましたので、次々期第62回大会世話人に最も相応しいとのご推薦がありました。幹事会はこれを承認し、蔵本幹事も次期総会で承認されればお引き受けするとのことでした。

#### 6. 昭和63年度 秋季シンポジウムについて

一昨年、昨年に引き続き、本学会活性化のため本年度も秋季シンポジウムを開催し、横浜市大梅田 誠教授にお世話をお願いすることになりました。尚、シンポジウムの内容については従来の“メイン・テーマ” in vivo - in vitro から”が踏襲される様ご配慮をお願いすることになりました。

#### 7. 本学会制度上の問題点について

蔵本庶務幹事より、下記のとおり検討すべき内容の提案がありました。

日本組織培養学会制度上の問題点について

- ① 一旦会員になると会費未納であっても、「組織培養研究」を受領し、選挙権を有している。会員の資格検討を。
- ② 幹事の任期は2年で、全員改選制である。適切か。
- ③ 現幹事は任期終了後2期4年間幹事の被選挙権を持たない。適切か。
- ④ 会長の任期は4年である。適切か。
- ⑤ 次期会長（副会長）制は必要ないか。
- ⑥ 現在、会員数700名を擁する学会となっているが、役員は会長の他“幹事”である。評議員、

理事の2段階制としなくてよいか。

- ⑦ 組織培養研究の国際化が進んでいるが、国際担当役員（IACC 幹事）を選出する公正な方法は。
- ⑧ 規約では幹事会を年2回開催となっているが、これだけで十分か。
- ⑨ 現在ほとんど全ての懸案は幹事会で検討・決定されているが、編集委員会、奨励賞選考委員会など専門委員会の設置は必要ないか。
- ⑩ 日本組織培養学会々則の検討

上記の問題のうち、下記の3点を新幹事会へ申し送ることになりました。

- 現行制度では、幹事の任期は2年で全員改選制となっているが、引継ぎが大変困難であるので、検討する。例えば、任期を4年とし2年毎の半数改選とする。また、任期を最終年度の3月31日までとせず、大会開催日までとする。これに合わせて副会長制も考慮し、例えば会長2年、副会長2年とするか等についても検討する。
- 佐藤会長からIACC問題について、IACCとJTCAとの関連を密にするためIACC委員として時の会長が必ず参画する様にし、次期会長と現会長が交替して残任期間3年を引き継ぎ、委員の選考については任期終了後選挙等を検討する様提案があり、幹事会はこれを承認しました。
- 前記の如く、本学会機関誌の検討ならびに編集委員会設立について検討する。

その他いろいろと検討すべき事項がありますが、本学会の発展のためできる限り前向きに取り組む様にしたいとの意見で一致しました。

## 8. 第61回 大会世話人挨拶

大分医大 高木良三郎教授より、会員通信第64号にお知らせいたしましたように大分市で5月19日(木)、20日(金)、21日(土)の3日間にわたって第61回 大会を開催いたしますとのご挨拶がありました。尚、最終のご案内は別項に記載されていますのでご参照下さい。

## 9. その他

- (i) 新入会員 14名が承認されました。
- (ii) 松村外志張用語編集委員より下記のメッセージが届きました。—— 辞典の編集は黒田行昭会員を中心に順調に進んでおりますが、この3ヶ月で370語もの用語を追加しました。これは、バイオテクノロジーの最近の進歩を取り入れるため、やむをえないことと思います。従って、校了となるにはもう数ヶ月かかると思います。

日本規格協会（JIS）は生体工学標準化委員会第二部会（三井洋司部会長）、用語委員会（松村外志張世話人）を通じて日本組織培養学会の辞書編集事業と連携していますが、辞書の編集以降の事業についても連携を保つことに可能性があります。この点、次の幹事会に引継いで頂ければ幸いです。

- (iii) 渡辺正己編集幹事より、組織培養研究第6巻2号の会計報告が下記のとおりでございました。

取 入			支 出		
項 目	内 容	金 額	項 目	内 容	金 額
広告収入 <sup>D)</sup>	26件	1,280,500	印刷費	1000部 ●1,350	1,350,000
販売収入	6件 ●2,500	15,000	別刷費	30部/執筆者	200,000
学会補助金		400,000	事務費	郵便費	35,000
				コピー費	48,000
				雑誌運搬費	62,500
合 計		1,695,500	合 計		1,695,500

1) [内訳]	B5表2	1件	● 80,000	80,000
	B5後付け	24件	● 50,000	1,200,000
	B5半頁	1件	● 30,000	30,000
	広告代理店手数料			△ 29,500
	合 計			1,280,500

(W) 乾 直道会計幹事より、第61回大会総会の承認を経て本年度より年会費を値上げする予定になっているので、年会費の納入は総会后にして欲しいとのお願いがございました。

(V) 乾 会計幹事より、先に行われました会長・幹事選挙で、会長選挙に被選挙権のない方についての誤り訂正の速達発送費(15万円余)を蔵本庶務幹事(選挙管理委員)個人で負担されておりますが、これは本来学会が負担すべきものであるのではとの提案がありました。幹事会はこれを異議なく承認し、蔵本幹事に返還することに決定しました。

(最後に、幹事会開催にあたって会議室の提供等御便宜をはかっていただきました旭化成工業株式会社)に厚く御礼申し上げます。

(蔵本博行、宮崎正博)

## § 日本組織培養学会第61回大会

世話人 高木 良三郎(大分医大・内科第一)

会 期 : 昭和63年5月19日(木)~21日(土)

会 場 : 大分市府内町 トキハ会館 5階ホール

TEL 0975-38-3111

事務局 : 大分県大分郡桜間町医大ヶ丘1丁目

大分医大・内科第一 TEL 0975-49-4411 内線 2795

一般演題 公 募 42題

特別講演

(1) 膜蛋白質の存在様式に関する新しい視点 —— 糖脂質結合型膜蛋白質 ——

池 原 征 夫(福岡大・医)

司会 黒木 登志夫(東大医科研)

(2) In vitro growth of mouse embryo cells without senescence

David Barnes (Dept. Biophys. Biochem.,  
Oregon State Univ., U. S. A.)

司会 山根 績(元東北大・抗酸研)

シンポジウム

組織培養——臨床医学への還元

司会 仁保 喜之(九州大・医)

高木 良三郎(大分医大)

奥村 秀夫(国立予研)

野沢 志朗(慶応大・医)

喜多野 征夫(大阪大・医)

徳永 蔵(佐賀医大)

岡村 精一(九州大・医)

中村 敏一(九州大・理)

ワークショップ

セルバンク

司会 梅田 誠(横浜市大・木原研)

大野 忠夫(理化研)

(1) セルバンク業務

大野 忠夫(理化研)

常盤 孝義(岡山大・癌研)

水沢 博(国立衛試)

養和田 潤(林原生物研)

加治 和彦(都老人研)

鈴木 利光(新潟大・医)

難波 正義(川崎医大)

(2) 新しい細胞株育種

高岡 聡子(高木皮膚科・培養) 小山 秀機(横浜市大・木原研)

小野 魁(日本大・医) 押村 光雄(神奈川・癌センター)

安本 茂(神奈川・癌センター)

セッション・イン・デブス

無血清培養法の展開

司会 村上 浩紀(九州大・農)

菅 幹雄(東北大・抗酸研)

(1) 物質生産への応用

新谷 靖(武田・中央研)

橋爪 秀一(森永・生科研)

佐藤 征二(協和発酵・研)

隈本 正一郎(クロレラ・研)

(2) 生体環境再構成のための無血清培地

加治 和彦(都老人研)

榎 並淳平(獨協医大)

星 宏良(バイオ科研)

菅 幹雄(東北大・抗酸研)

日	時	第一会場 (ローズA)	第二会場 (ローズB)
5月19日	14:00~16:00	一般講演 10題	一般講演 10題
	16:15~18:00	ワークショップ セルバンク I. セルバンク業務	
		夕 食	
	19:00~21:00	ワークショップ セルバンク II. 新しい細胞株育種	
5月20日	8:45~11:00	一般講演 11題	一般講演 11題
	11:20~12:10	招待講演 (1)	
		昼 食	
	13:00~13:50	総 会	
	14:00~17:40	シンポジウム 組織培養— — 臨床医学への還元	
	17:50~18:40	招待講演 (2)	
	19:00~21:00		懇 親 会
5月21日	9:00~12:35	セッション・イン・デプス 無血清培養法の展開 I. 物質生産への応用 II. 生体環境再構成の ための無血清培地	

## § 学会誌改正ワーキンググループ活動報告

### 組織培養学会誌“組織培養研究”

#### 改正に関する提言

学会誌改正ワーキング・グループ委員

宮崎正博(岡山大), 間中研一(獨協医大), 許 南浩(東大),

渡辺正己(横浜市大)

オブザーバー 加治和彦(都老人研)

#### 1. 組織培養学会の存在意義:

日本組織培養学会は、研究会として発足以来、我国における細胞培養技術の開発と普及に中心的役割を果たしてきた。そして会員諸氏の努力と学会活動によって生み出された技術の進歩と細胞生物学の対象の拡大により、組織培養学の各論として幾つかの関連学会を生み出してきた。こうした中で、日本組織培養学会は、細分化した関連学会ではとすれば狭くなりがちな視野を拡げ、組織培

養学という共通の舞台としての関連学会会員間の研究交流の場を提供するとともに、それぞれの学会活動を総合的にまとめる中心的学会としての役割を果たさねばならない。

## 2. 組織培養学会機関誌発行の意義：

学会は、その学会活動を通じて学会員の学問的立場を明確にし、学会員の学問的利益を守り、国民生活に貢献するためである。その目的のため学会は、1) 学会員に対する情報提供と研究成果の発表の場を与えるとともに、2) 学会活動を広く世に知らしめるために独自のマスメディア（機関誌）を持つことが必要である。現時点において、“組織培養研究”は、組織培養学会が発行している唯一の機関誌であり学会員が研究発表の手段として使用できるメディアとして継続して発行し、学会の活性化を計ることが望ましい。研究成果発表の場として活用するためには速報性と国際性を合せ持つことが必須であり、早急に英文論文誌として年4回以上の発行を目指すべきである。

## 3. 組織培養学会誌“組織培養研究”の改正についての問題点

現在、組織培養学会では、年1巻2号の邦文研究誌“組織培養研究”の発行を行っている。そのうち、1号は大会抄録集であり、2号のみが情報交換等のための機関誌として位置づけられているが、投稿規定や審査規定等も明確でなく質の高い論文誌としての資質を備えているとは言えない。学会機関誌は、英文論文誌であることが学会員の研究結果を国際的に発表する場を確保する意味で最も理想的な形態であり、本学会でも将来的に季刊誌以上の論文誌に移行してゆくことが望ましいが、現時点での移行は容易でない。理由は幾つかあげられるが、その最大の理由として、学会の経済的不安定性があげられる。資料1には、過去3年間の各巻2号の発行に要した出版費用とその支出に占める広告収入の割合を表している。資料にしめされるように研究誌の発行費は買あたりおよそ1万円で大きくは変わらない。しかし、出版費用に占める広告収入の割合は、50%～70%とかなり大きくかつ一定しない。昭和63年度の予算案（資料3）では、出版費の45%を広告収入で賄うとしているが、これを同規模の学会である放射線影響学会のそれ（約6%）（資料4）と比較すると約8倍とかなり高い比率を示している。学会においてもっとも重要な活動に位置づけられる機関誌発行が、安定した収入を見込めない広告収入に頼ることは極めて異常なことであり、この問題が解決されないと学会誌の改正問題は机上の空論に終わってしまうと思われる。また、こうした予算状況では、現状の年1回の研究誌発行でさえもかなり無理を強いられていることになる。因に、研究誌の発行形態に工夫を加え、紙質の交換等により発行費がどの程度節約することが可能かを印刷会社に試算させたが（資料6）、1000部程度の発行部数では、高々数%程度の節約にしかならず現実性はない。ただし、もし季刊誌とした場合には、文部省の刊行物発行補助金が180万円程度期待できるが、年間の予想発行費用660万円との差額480万円の新たな財源を確保せねばならない。根本的な財政的改革をおこなわずして、研究誌の改革はありえない。ワーキンググループでは、資金調達の見込みを調査したが、会員1名あたり5千円程度の負担が必要であり、これには学会員のコンセンサスを得ることを重視せねばならない。

経済的裏付けが実現したとしても、実際に学会員が投稿するか否かもかなり重要な問題である。いわゆる学会員の論文誌に対する期待度であるが、現時点では必ずしも高いとは言えない。こうした傾向は組織培養学会と同質の国内学会で論文誌を出している細胞生物学会の場合にも常に問題とされるという。これらの組織培養学会と関連する学会と共同して論文誌を発行する方向も重要であ

ろう。

#### 4. 結 論

ワーキンググループとしては、論文誌として英文学会誌を発行することは学会の活性化に必須であると結論するが、日本組織培養学会の活動が弱体化している現状では早急に結論をだすべきではなく、広く学会員の意見を聴取し、学会員の意見を汲み取る必要があると考える。そのために、2つの学会運営上の改正を提案する。

その第1に、学会誌の編集を編集幹事が担当するのではなく幹事会とは切り離した学会誌編集委員会を発足させることを提案する。現行のように2年毎の幹事改選にともない編集委員が変る制度では、学会誌編集に一貫性がないばかりか学会誌改正の動きも一貫性を持たせることはできない。学会誌は2年程度の周期でその編集方針が変るようではいけない。具体的には、学会誌編集委員会は、1名の編集委員長と7名程度の編集委員で構成し、編集事務局は編集委員長のもとにおくものとする。編集委員の任期は、6年とし、委員の半数ずつを3年毎に改選するものとする。選出された編集委員は、現行の“組織培養研究”の発行を続けつつ早急に投稿規定とレフリー制を整備する。組織培養学会単独ではなく関連学会および研究会と協力して論文誌を発行する可能性も大いに検討すべきであろう。

第2に、幹事会は、早急に学会の経済的体質の改善を計り、論文誌発行をサポートできる財源を確保するよう努めるよう提案する。すくなくとも、学会運営費の80%以上は確定した財源から得ることが望ましいと考える。

資料1 各巻2号の出版費用および広告収入の占める割合

年度	号	頁数	出版費用	広告収入	広告収入の占める割合
60	4巻2号	204	1,825,200	892,500	49%
61	5巻2号	180	1,927,000	1,297,500	67%
62	6巻2号	100	1,695,500	1,280,500	76%

資料2 諸学会の会員数、会費および学会誌発行の状況（昭和61年度）

学会名	機関誌の種類	会員数		会費		会員一人あたりの負担金額
		正会員	賛助	正会員	賛助	
基礎老化学会	研究誌	447	2	4,000	50,000	4,204円
放射線影響	論文誌	780	34	6,000	10,000	6,167
細胞生物学会	論文誌	1,350	11	8,000	30,000	8,178
分子生物学会	会報	1,820	26	2,500	30,000	2,887
動物学会	論文誌	1,911	17	8,000	15,000	8,179
ウイルス学会	論文誌	2,358	49	4,500	30,000	5,019
.....						
組織培養学会	研究誌	606	62	3,000	10,000	3,650

資料3 昭和63年度 組織培養学会一般会計予算修正案

収 入		支 出	
正会員会費	2,800 (千円)	研究誌2号発行費	1,500 (千円)
賛助会員会費	1,300	会員通信発行費	450
入会費	50	大会補助金	500
広告収入	1,000	新企画費	300
		IACC加盟費	250
		IACC事務費	200
		業務委託費	450
		研究誌発送費	170
		通信事務費	510
		会員名簿製作費	280
		運営費	300
		予備費	200
		繰越金	40
合 計	5,150	合 計	5,150

資料 放射線影響学会昭和63年度 予算案

収 入		支 出	
費 目	予 算 (円)	費 目	予 算 (円)
62年度よりの繰越金	8,500,000	事業費	8,680,000
会費収入	6,200,000	集 会 費	1,280,000
学 会 費	5,100,000	大 会	1,000,000
賛 助 会 費	1,100,000	共 催	300,000
会誌発行収入	2,750,000	大会旅費援助	250,000
投稿料・別刷代	2,000,000	会誌発行費	7,400,000
雑誌売上代	600,000	編 集 費	700,000
広 告 料	150,000	印 刷 費	6,700,000
利 息	50,000	会 務 費	2,700,000
寄 付	200,000	会 議 費	650,000
科研費補助金	1,800,000	幹 事 会 費	250,000
		幹 事 会 旅 費	400,000
		事 務 費	2,050,000
		事 務 委 託 費	1,500,000
		謝 金	250,000
		旅 費	100,000
		通 信 費	100,000
		消耗品費・雑費	100,000
		予 備 費	1,000,000
		学会運営積立金	1,000,000
		計	13,380,000
		64年度への繰越金	6,120,000
合 計	19,500,000	合 計	19,500,000

資料5 同等規模の学会との比較

5-1 年間学会予算と会誌刊行費

学 会 名	会員数	年間学会予算(万円)	会誌刊行費(万円)	年会費(千円)
放射線影響学会	780	1,900	740	6
培 養 学 会	630	510	150	3

5-2 会誌刊行費の支出に対する割合

学 会 名	総収入に占める 正会員の割合	総収入に占める広告等 の賛助会費の割合	総支出に占める研究 誌支出の割合
放射線影響学会	32 %	6 %	38 %
組 織 培 養 学 会	54 %	45 %	32 %

資料6 研究誌の発行費の試算

形 態	誌 質	発行数	発行回数	単 価	必要経費
研 究 誌	フート紙	1,000 部	1回/年	1,350	1,600,000
研 究 誌	上質紙	1,000 部	1回/年	1,250	1,500,000
論 文 誌	上質紙	1,000 部	4回/年	1,200	6,400,000

資料7 季刊の論文誌とした時の支出の内訳

項 目	支 出	内 訳
印 刷 費	4,800 千円	1,200 千円×4回
編 集 費	1,000 千円	250 千円×4回 校閲料 200 千円 事務費 50 千円
発 送 費	800 千円	200 千円×4回
計	6,600 千円	

資料8 季刊の論文誌とした時の収入案

項 目	収 入 額	
広 告 収 入	1,200 千円	年間4回掲載費10万円で12社
投 稿 料	400 千円	1報あたり1万円(年間40報)
刊行誌補助金	1,800 千円	
会費値上げ	3,200 千円	一人あたり5千円強
計	6,600 千円	

## § テクニカルノート

### 「炭酸ガスフランキを使わないで

### マルチウェル・スクリーニングを行う方法」

元会員 高岡 聡子

私は現在、組織培養学会の会員ではありませんが、週2回、高木皮膚科医院の培養室にこもって細胞たちとおつきあいしています。現役のところとは違って、のんびりと細胞の顔を眺めたり、ありあわせの物を便利に使う方法を考えたりしているうちに思いついた「私にとっての大発見」を投稿させて頂きたいと思います。

私は株細胞は炭酸ガスフランキを使わずに密栓した培養びんで継代してきましたから小さな規模の培養室は普通のフランキだけで間に合うつもりでした。ところが、マルチウェルのような開放型の培養容器を使おうとするとやはり困るのです。昔から、デシケーターの乾燥剤を入れる所に水を入れ、ドライアイスを少しばかり（このデシケーターには何gと決めて）入れれば炭酸ガス培養器として使えることは知られていますが、ドライアイスをその都度買うのも面倒だし、デシケーターもないし・・・そこでお風呂に入れるバブではどうかと思いつきました。折よくバスクリンを頂いたので（バブとバスクリンは別物だということは後で知りました）これだこれだと思って試してみました。ところが溶かしてみると強い香料の匂いがして、これでは細胞もたまらないだろうとがっかりしながら、バスクリンの有効成分をみると、重曹が主成分です。何だ重曹を入れればいいのかと、思いついて、早速、密閉出来を容器をデパートに探しに行きました。プラスチック製の大きなお弁当箱で留め金がついていて、きっちり密閉出来、中にすのこが入ったものがありました。マルチウェルなら4枚入ります。すのこの下に水を入れてみたら100mlくらいで適量でした。この容器の中にまず5%の重曹水を100ml入れ、PR入りの培地を分注したマルチウェルを収めて37℃のフランキへ入れておきました。約1時間たつとPRの色かpHを判定してほぼ7.4 1週間、密閉したままおきますとそのままのpHを維持出来ました。同じ条件で純水を入れた容器では1時間後にpH8くらいに高くなっていました。それからこの方法でマルチウェル・スクリーニングに困らなくなりました。実験的には1700cmの容器で1%~5%の重曹水100mlで炭酸ガス5%の条件に見合うようです。大量の実験には役に立たないでしょうが、炭酸ガス濃度を細かく設定して、細胞の増殖に及ぼす影響などしらべることは役に立つと思います。実際に重曹水の至適濃度（炭酸ガス濃度ともいえる）は細胞によってかなり異なるという結果がでています。

## § 「Invertebrate and Fish Tissue Culture」

### の会員特別頒布のお知らせ

1987年に開催された第7回国際無脊椎動物・魚類組織培養学会のプロシーディングが、学会出版センターとSpringer社で出版されます。本会会員に対して、定価6,500円のところ特別価格5,600円（送料共）でお頒けすることになりました。同封のパンフレット（振替用紙付）を御参照のうえ、お申し込み下さい。

〔問合せ先〕 (財) 日本学会事務センター 事業部  
〒113 東京都文京区本郷6-16-3  
TEL 03-817-5811

〔申し込み方法〕 同封の振替用紙を用いるか、上記事務センターにお申し込み下さい。

## § 編集後記

2年前、会員通信を担当するにあたって、会員相互の風通しをよくする場にすること、読んで楽しいものにすることの2つを目標にしました。庶務幹事のがんばりで幹事会での議論は詳細に報告できるようになりましたが一般会員からの提言は不足です。面白さもまだまだですが、新担当幹事に期待しましょう。

4月8日、東京は大雪でした。雪ニモ春ノサムサニモマケズ研究室の花見会をしました。

(N. H.)

栃木にも東京より1週間遅い春がやってきました。桜の花の下で新入生達が和やかに語り、20年前の自分を想い起こさせてくれています。

さて、今号こそ我々のノルマを終える記念号です。2年の長い間、ご精読頂きありがとうございます。組織培養学会の更なる発展を期待して。(K. M.)

### ◆お詫び

前号に掲載されました記事の中で、著者の所属に誤りがありました。以下の通り訂正いたします。

記事	器官形成研究会	著者	河村 健司
所属	(誤) 榊 日本バイオマテリアル研究所		
	(正) バイオマテリアル研究所		

§ 入会者 14名(正会員12名, 賛助会員2社)

(正会員)

氏名	現住所	所属機関・所在地
飯野 信二	〒750 下関市彦島迫町 4-8-17 ☎0832-66-9986	三井東圧化学㈱彦島工業所 *〒750 下関市彦島迫町 7-1-1 ☎0832-66-4398
片山 正文	〒980 仙台市柏木 3-8-8 フリーデン 柏木 305 ☎022-275-4987	東北大学医学部第二外科 *〒980 仙台市星陵町 1-1 ☎022-274-1111
倉持 浩	〒115 北区岩淵町 7-3 第5アパート ☎03-902-7928	日本化薬㈱総合研究所 *〒115 北区志茂 3-31-12 ☎03-598-5220
鈴木 正人	〒980 福島市八島町 10-16 八島ハイ ツ 101 ☎0245-31-6685	福島県立医科大学第二外科 *〒980-12福島市光が丘 1 ☎0245-48-2111
高橋 計介	〒370-35群馬県群馬郡群馬町足門 726-8 ☎0273-73-1144	群馬県水産試験場 *〒371 前橋市敷島町 13 ☎0272-31-2803
滝沢 実	〒389-08長野県更級郡上山田町温泉 1-3-16 ☎0262-75-0722	㈱八光電機製作所メディカル事業部医療器 *工場技術課 〒389-08長野県埴科郡戸倉町 大字機部 1490 ☎0262-75-0121
太口 育彦	〒547 大阪市平野区長吉六反 3-5-34 ☎06-707-1144	田辺製薬㈱応用生化学研究所生化学部 *〒532 大阪市淀川区加島 3-16-89 ☎06-300-2571
田崎 陽子	*〒160 新宿区西早稲田 2-14-35 あざ み荘 202号 ☎03-203-0876	東京都老人総合研究所セルバンク 〒173 板橋区栄町 35-2 ☎03-964-1131
乗 淳一郎	〒190 立川市幸町 2-2-1 西けやき台 1-504 ☎0425-38-9004	日本水産㈱中央研究所 *〒192 八王子市北野町 559-6 ☎0426-45-9151
塙 三恵	〒184 小金井市貫井北町 5-7-13 ☎0423-24-5996	日本大学医学部第一病理学教室 *〒175 板橋区大谷口上町 30-1 ☎03-972-8111
渡辺 幸彦	〒590-02和泉市光明台 1-15-5 ☎0725-56-7543	シオノギ製薬㈱研究所生物化学部門 *〒553 大阪市福島区鷺洲 5-12-4 ☎06-458-5861
渡辺 正	〒363 桶川市朝日 3-10-2 ☎0487-74-2264	㈱小林コーセイ研究所 *〒114 北区栄町 48-18 ☎03-919-6131

(賛助会員)

機関名	所在地
脚京都第一科学東京支店	〒103 中央区日本橋兜町 11-11 ニッソ ンビル ☎03-684-1841
脚高研営業部	〒171 豊島区目白 3-14-18 ☎03-950-6600

§ 住所変更 14名(正会員13名, 賛助会員1社)

(正会員)

氏名	現住所	所属機関・所在地
石橋 整	〒316 日立市西成沢町 1-7-1-306 ☎0294-24-3524	脚日立製作所基礎研究所 *〒113 文京区湯島 3-5-10 東京日立病 院別館中央研究所内 ☎03-837-3869
伊奈 啓輔	〒873-02大分県東国東郡安岐町下原 1456 ☎09786-7-1211	大分医科大学内科第一 *〒879-56大分県大分郡扶間町医大ヶ丘 1-1506 ☎0975-49-4411
岡庭 智津子	*〒194 町田市旭町 2-4-18 旭コーポ 2F ☎0427-28-1319	脚スペシャルレファレンスラボラトリー 〒192 八王子市小宮町 51 ☎0426-46-7811
北村 四郎	*〒673-04三木市上の丸町 11-27	関西医科大学微生物学教室 〒570 守口市文園町 1 ☎06-992-1001
木下 幹久		京都桂病院 *〒615 京都市西京区山田平尾町 17
酒依 元子	*〒338 与野市桜丘 2-3-18 ☎0488-52-4064	慶応義塾大学医学部産婦人科 〒160 新宿区信濃町 35 ☎03-353-1211
佐藤 茂秋	〒930 富山市西田地方町 2-11-18 県 公舎A -2 ☎0764-25-4408	富山県衛生研究所 *〒939-03富山県射水郡小杉町中太閤山 17-1 ☎0766-56-5506

氏 名	現 住 所	所属機関・所在地
下 条 寛 人	*〒185 国分寺市本多 3-1-18 ☎0423-21-0492	国立予防衛生研究所腸内ウイルス部 〒141 品川区上大崎 2-10-35 ☎03-442-2181
高 野 宏 一	*〒151 渋谷区代々木 5-15-10 代々木 の杜ハイフ 216 ☎03-469-1135	日本たばこ産業㈱医薬事業 〒105 港区虎ノ門 2-2-1 ☎03-582-3111
寺 見 文 宏	〒321-34 栃木県芳賀郡市貝町赤羽 2606-6, B -224 ☎02856-8-1271	㈱学習研究社植物工学研究所 *〒253 茅ヶ崎市本村 1-2-14 ☎0467-53-2027
中 沢 恒 幸	*〒108 港区白金台 1-1-21-102 ☎03-442-8175	東京都済生会中央病院 ☎03-451-8211
林 官		東北大学医学部附属病院小児外科 *〒980 仙台市星陵町 1-1 ☎022-274-1111
古 家 雅 代		福井医科大学放射線基礎医学教室 *〒910-11 福井県吉田郡松岡町下合月 23 ☎0776-61-3111

( 賛助会員 )

機 関 名	所 在 地
㈱日本化学物質安全情報センター	〒105 港区西新橋 1-19-4 難波ビル 2F ☎03-593-1190